



彩の技術士

公益社団法人 日本技術士会 埼玉県支部
The Institution of Professional Engineers, Japan 埼玉県支部

こうほう・Vol.12.2018.10.1.

〒333-0844 川口市上青木3-12-18 SKIPシティ A1-706B
埼玉県支部事務局 Tel.:048-263-0840, Fax.:048-263-0841
<http://www.engineer.or.jp/shibu/saitama/index.html>

目		次	
巻頭言	日本技術士会倫理委員会委員長	桑江良明	
支部長挨拶	日本技術士会埼玉県支部長	増古恒夫	
委員会活動紹介			
総務企画委員会		委員長 村山 肇	
CPD委員会		委員長 白岩信裕	
科学技術振興委員会		委員長 黒澤兵夫	
地域産業支援委員会		委員長 近藤 孝	
地域委員会		委員長 穴戸富雄	
平成30年度年次大会報告		総務企画委員会	
技術士一次/二次試験祝賀会報告		CPD委員会	
コーチング体験研修への誘い		地域産業支援委員会	

巻頭言

日本技術士会倫理委員会委員長 技術士（原子力・放射線部門）桑江 良明

考え続ける技術者倫理

原稿依頼をいただき、12年前技術士になりたての頃、埼玉県技術士会（現・県支部の前身）で講演させていただいたことを懐かしく思い出しました。その時の発表資料を改めて見ると、当時の仕事の内容、原子力技術に対する社会からの信頼の必要性、そのために新設された原子力・放射線部門の技術士への期待、そしてその期待にどう応えていくかという抱負を希望に満ちて語っていたことが窺えます。今振り返ると半分どころか相当“青い”。にもかかわらず埼玉の先輩技術士諸氏はそんな新米技術士に温かいエールを送ってくださいました。

「原子力・放射線部門」（以下「原・放部門」）は2004年に新設されました。設置趣旨（文科省審議会答申）によれば、原・放部門の技術士とは「組織の論理に埋没せず、常に社会や技術のあるべき姿を認識し、意識や技術を常に向上させていく、社会から信頼される個人としての技術者」ということとなります。私は原・放部門の“一期生”として合格し、部会を中心に活動（幹事6年、部会長4年）してきましたが、果たして、原・放部門の技術士として期待に応えられたのだろうか、と問い続けています。

原子力界で上記のような技術士が増え活躍するためには、技術士自身は何を行い、業界や学界には何を働きかければ良いのか自問自答してきました。そんな道半ばの状況で3.11を迎え、そこからは、「福島第一原発事故に対する原・放部門の技術士としての責任は如何なるものか」これが当時部会長としての新たな問いかけとなりました。単なる「技術者」ではなく技術者倫理を標榜してきた「技術士」としての責任です。



（桑江良明倫理委員長）

技術士として何が出来、何が出来なかったのか。「技術者倫理」を掲げてきた自分たちは倫理的であったのか。そもそも「倫理的である」とはどういうことなのか……。これらの問いに対する答えは未だ得られていません。しかし、少なくとも謙虚に考え続けること、悩み続けることが必要なのだと思います。

（駆け出しの技術士の頃お世話になったことに感謝しつつ）貴支部の益々のご発展をお祈りします。

支部長挨拶

日本技術士会 埼玉県支部長 増古恒夫

平成30年度上半期が終わりました。上半期活動は、関連する諸団体の皆様のご協力と会員皆さまのご努力により計画以上の成果を出すことができました。この場をお借りし御礼申し上げます。

上期の支部活動に関しては概ね以下の通りです。
(詳細は各委員会報告参照ください)

- 産学官連携活動に関しては、会員が県内各商工会議所・商工会を連携のために訪問。特筆すべき事項としては埼玉県中小企業団体中央会から新たな技術審査等が復活、川口商工会議所から技術支援要請等があり支部技術相談員から適任者を推薦対応していること等があります。また埼玉大学産学官連携協議会には各企画に関して当支部会員が積極的に参加しています。
- 科学技術を通じた社会貢献活動、行政施策への協力に関しては特に青少年の科学に興味を持つよう各種セミナーや実験等、地道な活動を進めています。
- CPD (Continuing Professional Development) に関しては技術士会本部各部会とも連携した企画により一層の充実を図ら

れています。

当支部の課題として会員の活性化、特に若手会員・企業内会員の活性化があります。多くの会員の皆様に支部活動を通じて活躍していただきたいと思えます。既に技術士会本部広報にあるとおり、この下期には2年に1度の理事、支部幹事の選挙が予定されています。支部幹事会は勤務中の方でも参加できるよう偶数月の第1週か第2週の土曜日午前中に設定しています。支部活性化のためにも若い方の幹事立候補をお願いいたします。

技術士制度の改定も概ね纏まり法改正の手続きが来年度には進むと思われます。技術士登録が更新制(5年に1度)になること、CPDが必須になること等があります。

国内経済が伸び悩む中、埼玉県は数少ないGDP伸び率がプラスの県です。ものづくりの企業が多くあり、技術士として活躍できる県です。より多くの技術士が結集して埼玉県が「技術立県」として引き続き発展できるよう努力していきましょう。



(増古恒夫支部長)

総務企画委員会

埼玉県支部総務企画委員長 村山 肇

平成30年度の年次大会は7月7日(土)に無事終了しました。残念なことは、参加者が一昨年の75名に対し45名と少なかったことです。この要因を分析してみますと、次のとおりいくつか考えられます。

- 1) 行事实施日程：当初7月21日を予定していたが、会場の手配が遅れ、7月7日に変更した。技術士二次試験・総監試験の日程とほぼ重なった。
 - 2) 特別講演：特別講演の依頼が大幅に遅れてしまった。
 - 3) 上記内容により、結果的に準備不足により会員への通知が遅れた。
- 等が考えられます。

そこで、来年度開催に向け早めに改善策の検討を進めることとしました。

特に来年度は幹事改選の年でもあるため、

- ① 7月末の開催、② 平日開催の検討(企業内技術士の参加促進)、③ 年次大会への参加費は無料、④ 特別講演の複数化、等を考えております。

年次大会についての皆様からのご意見、講演内容のご希望をお待ちしております。

次に大きな課題である「技術士知名度の向上策」です。私は、技術士試験合格者祝賀会と年次大会の席上で、「技術士をブランドと見立てる」と提案し、技術士ブランドの構築という話をしました。しかし言うは易し、行うは難しで具体的な行動内容が出てこないのが現実です。外部への積極的アピールが絶対と考えるので、従来にも増して外部行事・イベント等への「共催」「後援」を行い、「技術士ブランド」を売り込むのが必要と思います。

本件につきましても、皆様から何らかのアイデア・ご提案をいただきたく、依頼致します。

CPD委員会

埼玉県支部CPD委員長 白岩信裕

本委員会では、13名の委員が1) CPD 行事の企画・実施、2) 技術士倫理の研修、3) 教育機関、若手技術者への技術士制度普及を目指し、参加者の満足度向上を心掛け、活動しています。上期(4月～9月)は、支部全体行事、各委員会行事に参画し、講演会を5回、見学会を3回、大学生への技術士

制度説明会を3回、コミュニケーション技法習得セミナーを1回実施しました。下期も同様な形式で講演会、見学会、技術士制度や開業支援の説明会を計画中です。詳細は日本技術士会HP や会員メールでお報せいたしますので奮ってご参加ください。

開催月日	場所	行事(テーマ)
10. 12	浦和コミュニティセンター	講演「産学官連携・埼玉のアグリビジネス」
11. 7	県西部地域企業	見学会「石坂産業(株) 廃棄物処理施設」
11. 21	大宮ソニックシティ	講演「炭素繊維による構造物補強(仮)」
12. 1	県北部地域公共施設	講演「環境管理(土壌汚染)」
1. 12	新都心ビジネス交流プラザ	技術士業績・研究発表大会、新年会
1. 26	浦和コミュニティセンター	「新規開業セミナー」
2. 6	県東部地域公共施設	講演「IoT、AI 早わかりセミナー」
3. 8	新都心ビジネス交流プラザ	彩の国産業活性化交流会関連講演
3. 23	浦和コミュニティセンター	セミナー「技術士資格取得制度説明会」

科学技術振興委員会

埼玉県支部科学技術振興委員長 黒澤兵夫

当委員会のメンバーは、15名で若いメンバー中心の委員会です。理科教室及び科学技術のイベントをとおり、若い人たち(小学生、中学生、高校生、大学生等)の科学及び技術の大好きな生徒と学生や若手技術者の育成を図ることをミッションとし、地域に密着した科学技術振興と社会貢献を目的に活動をしています。

1) さいたま市子ども家庭総合センター・開所式理科教室「くるくるレインボーづくり」

期日 平成30年4月1日14時～16時、場所 さいたま市子ども家庭総合センター多目的ルーム参加者数61名(小学生等)。<感想>さいたま市よりご依頼があり短期間で準備し、参加者から満足と主催者の感謝を戴き、よかったです。主なアンケートです。・イベントはとても楽しめてまた同じようなイベントをしてほしい。・春休みなどの長期休み以外でもイベントをしてほしい。・小学生がやれるイベントをたくさんやってほしい。等

2) さいたま市子ども家庭総合センター「わくわく!実験理科教室! 夏休み自由研究講座」

期日 平成30年8月3日10時～15時、場

所 さいたま市子ども家庭総合センター 多目的ホール1、参加者数32名(小学生)。<内容>①植物の超撥水性(ちょうはっすいせい)のおどろき! ②不思議な浮沈子(ふちんし)! ③ハニカム構造の強さ! ④



タマネギの皮でハンカチを染めてみよう<感想>理科実験を通じて参加者議さに感動し、理科大すきになったと思います。また、実験の原理、法則が技術として身近な製品へ応用され役立っていることが、理解できました。

3) 「女子中高生夏の学校2018」理科実験実施報告

日時 平成30年8月10日9時～11時30分、会場 独立行政法人国立女性教育会館、テーマ 染物の化学～絞り染めでマイハンカチを作ろう!、参加者5名。<感想>染料は繊維の開発に合わせて開発されてきたことが理解され、将来、目標として、女性技術士に興味をもって戴いた。

地域産業支援委員会

埼玉県支部地域産業支援委員長 近藤 孝

新体制の地域産業支援委員会が2年目の活動に入ってきました。地域産業支援委員会の重要なミッションは、「技術の力で地域の発展に貢献する」ことにあります。埼玉県支部が発足して6年経ちましたが、技術士の業務開発と活用促進の体制がようやく整い、関係する諸団体、企業様から技術士への依頼が増えて参りました。今後は活動を更に深化・活性化させて参ります。

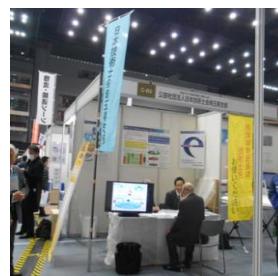
＜平成30年度の活動方針＞

“頼られる技術士”をスローガンに、息の長い活動を続けて参ります。

- 1) 社会貢献活動：大学・研究機関・金融機関との情報交換を進めます。具体的には埼玉大の各種研究会に積極的に参画します。
- 2) 地域産業支援活動：さいしんコラボ産学官様と共同の技術課題相談会を本年度も計画して協力してゆきます。また、昨年11月からスタートした“商工会議所・商工会連携活動”にて地域中小企業の支援を行って参ります。

3) 外部依頼対応業務：今年も、「第5回彩の国産業活性化交流会」を実施して、県内企業様のお役に立つよう技術士の活用促進をしてまいります。また、埼玉県中小企業団体中央会様のものづくり補助金フォローアップ事業に積極的に協力し、優秀な技術士を迅速に紹介することでご要望にお応えします。

展示会関係では、埼玉北部地域技術交流会、彩の国ビジネスアリーナ、BIZ SAITAMA などに出席し、技術士活動の紹介、技術相談会を実施します。皆様方のご指導、ご鞭撻を宜しくお願いいたします。



地域活性化委員会

地域活性化委員長 穴戸 富雄

平成30年度地域活性化各小委員会の諸活動を開始しました。昨年度実施したCPD行事（講演会、見学会）は参加者も増え、少しずつではありますが皆様の関心が高まってきたと感じます。今後は更なる参加者の増員を進めていきたいと思っております。そのため活動委員を増強し日々地道な活動をする事が重要と考えます。本年度は、講演会（2回）、見学会（3回）を計画しています。

〔活動の重要課題〕

- 1) 地域CPD行事参加者の拡大
 - ・技術士以外の参加者増員
 - 2) 地域商工会活動とリンクさせた行事の企画
 - ・企業相談会等での外部との連携強化
- 支部各委員会との連携を強め、諸課題の解決を目指してまいります。
今後のご指導、ご協力をお願いします。

平成30年度 地域活性化委員会CPD行事計画

主な行事	開催日時	行事内容（テーマ）	開催場所	講師
講演会	H30/12/01	路面沈下現象の究明と土壌汚染状況	熊谷市	支部技術士
	H31/02/06	IoT、AI 早わかりセミナー（第2回目）	越谷市	支部技術士 他
見学会等	H30/07/10	ボッシュ(株) 工場見学会	ボッシュ(株)東松山工場	ボッシュ(株)
	H30/09/01	日本煉瓦製造(株) 見学会（講演会）	深谷市（日本煉瓦製造）	金子 祐正氏
	H30/11/07	廃棄物リサイクル・くぬぎの森環境塾見学会	三芳町（三富今昔村）	石坂産業(株)
その他	H31/02	北部地域技術交流会（地域産業支援委員会と共催）	熊谷市（予定）	展示会出展

平成30年度 年次大会 ～チャレンジする技術士～ 報告

地域産業支援委員会・副委員長 若井一顕（総務企画委員会報告）

はじめに

平成30年7月7日（土）に埼玉県支部平成30年度年次大会が新都心交流プラザ（埼京線北与野駅前）で開催されました。参加者は45名（昨年度66名）でした。

今年度は“チャレンジする技術士”をテーマに掲げ活動方針の紹介を行いました。年次大会に先立ち、第1部では、「技術者の将来像」と題し埼玉大学 教学・学生担当理事の重原孝臣副学長による“Society5.0”時代の工学教育について、特別講演を戴きました。第2部では、埼玉県支部活動方針について各担当委員長からの報告がありました。

第1部 CPD講演（13:35～14:45）

Society5.0とは、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させて経済発展と社会課題の解決を両立する人間中心の社会のことです。2025年～2035年には日本の労働人口の49%がAIやロボットでの代替が可能といわれています。データの分析や秩序的・体系的操作が求められる職業はAIでの代替は可能ですが、芸術、哲学・神学などの抽象的な概念を創出するための知識が要求される分野やネゴシエーション、サービス志向性の求められる職業ではAIの代替は難しいといわれています。2015年9月25日に第70回国連総会で持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)が採択されました。世界を変えるための17の目標が掲げられています。埼玉大学では、リーダーシップを兼ね備えた理工系人材の養成、ニーズ調査からデザイン・設計など実践的プログラムを学科横断で実施していく計画などの取り組みが進められています。その中で実務家教員(IPAC)の必要性として技術士の活躍の場も期待されます。



講演者：埼玉大学副学長 重原孝臣氏

第2部 年次大会（14:55～17:00）

埼玉県支部長・増古恒夫氏から埼玉県支部の活

動経緯と今後の方針などのお話がありました。支部会員の約70%が企業内技術士であり支部活動の参加に期待したい。

次に支部の各委員会の年間活動報告と今年度の計画について委員長から報告がありました。

・CPD委員会委員長：白岩信裕氏からは月に2回程度のCPDの開催を推進していること。・科学技術振興委員会委員長：黒澤兵夫氏からは理科実験教室の開催状況について。・地域産業支援委員会委員長：近藤孝氏からはフォローアップ事業スタートなど地域の業務開発について。・域活性化委員会委員長：穴戸富雄氏からは県内の3小委員会の活動推進について。・総務企画委員会委員長村山肇氏からは年間業務と技術士のブランド力の構築について興味ある提案がありました。

会計報告は・会計担当：菅原宏氏からなされました。

質疑応答（フリーディスカッション）では各報告に関連して活発な意見交換がなされました。



質問への回答：栃木県副支部長と埼玉県支部長

おわりに

年次大会終了後に、参加者による懇親会を実施しました。栃木県支部副支部長の久芳良則氏が参加され、地域事情などについての意見交換も出来ました。今後は委員会活動と会員の積極的な参加を通し、支部の一層の発展を図っていきたくと考えています。



年次大会参加者

技術士一次／二次試験合格者祝賀会報告

埼玉県支部CPD委員会 浅見 薫

平成 29年度埼玉県支部技術士一次／二次試験合格者祝賀会が5月26日（土）、さいたま新都心ビジネス交流プラザにて合格者15名を含む46名（昨年度は合格者11名計42名）の参加のもと盛大に開催されました。祝賀会は、支部活動の紹介と特別記念講演の構成で行われ、司会の中田幹事の開会宣言の後、増古支部長の挨拶があり、その中で合格者の支部活動への積極的な参加に対する期待が述べられました。

支部活動は、委員会別に委員長より委員会の所掌や構成などが紹介され、前年度の活動と今年度の計画につき報告と説明が行われました。

特別記念 CPD 講演は、「埼玉県ダイオキシン対策の事例分析に見る技術者倫理」と題し、デンカ株式会社知的財産部の西岡朝明氏（技術士化学部門）に講演して頂きました。



西岡朝明氏

埼玉県所沢市周辺地区の廃棄物処理場から起きたダイオキシン汚染問題（平成11年2月報道）に関し、住民、国、県と共に、解決に携わった行政

官2名の取り組み事例を基に、行政官の対処した結果が技術者倫理の観点から有意義な行動であったのか、今後改善を要するものであったのかを諸資料の解析結果から示されました。まとめとして、多くの実務倫理は、適切な行動過程の決定やモラル選択の「なすべき正しいこと」の決定に関与し貢献する。また、努力した者は報われるという技術者倫理の考え方が話されました。

祝賀会終了後、懇親・交流会が行われ、村山幹事の司会のもと、技術士試験合格者の自己紹介が行われ、地域貢献活動に意欲的な合格者を囲み、自由な雰囲気の中、参加者相互の交流と親睦が深められました。



合格者を囲んで懇親・交流会

コーチング体験研修への誘い

地域産業支援委員会、CPD 委員会

技術士は専門技術を駆使し、顧客要求を満足させ、公益にも配慮しながらビジネスを展開しなければなりません。その際、顧客の思いや悩みを聞き、共に考え解決を図っていく対応が必要です。それには諒解関係に基づいた対話の構築、即ち「コーチング」スキルの習熟が求められます。支部では昨年、これを重視し、「コーチング体験研修」をCPD行事として定期的で開催することにいたしました。埼玉県内は言うに及ばず中小企業を対象に技術相談、指導をされておられる

技術士の方には是非とも受けたい研修と考え、昨年12月と本年2月と6月と計3回実施しています。半日コースの研修ですが、計77名の方がセッション形式によるコーチングを体験されました。

指導経験豊富な小野武明氏（中小企業診断士、社会保険労務士、PHP 研究所認定ビジネスコーチ）が講師を務められています。今後も研修を継続してまいりますので、希望者は技術士会ホームページから参加申し込みをお願いいたします。お待ちしております！

編集後記

こうほう「彩の技術士」は第12号となりました。記載内容（開催行事の紹介等）の充実を目指し、第8号より増頁をしましたが、ワンパターン化してきました。皆様のご意見を掲載する「欄」を設けたく、掲載内容を含め県支部の活動状況等皆様のご意見をどんどんお聞かせください。

[総務企画委員会]

おくづけ 公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部
こうほう・彩の技術士 第12号
発行年月日 2018年（平成30年）10月1日発行
発行所 埼玉県支部
E-mail saitama@engineer.or.jp
編集 埼玉県支部総務企画委員会